

平成 30 年 10 月 6 日

グローバル・チャレンジ・プログラム 海外渡航報告書

標記について、下記のとおり報告します。

記

○基本情報

氏名	国学 太郎	所属	経済 学部 経営 学科 2 年
学籍番号	16xxxx	渡航期間	平成 30 年 8 月 ~ 平成 30 年 9 月
渡航先国・地域	タイ、カンボジア、ベトナム	渡航目的	1. ボランティア 2. 国際交流活動 ③. 観光 4. その他()

○報告内容

1. 渡航概要(渡航中のスケジュール、渡航の活動内容 等) ※必須(300字以上)
渡航中のスケジュール(全20日、8都市) 出国⇒タイ(バンコク5日間)⇒タイ(アユタヤ1日間)⇒カンボジア(シェムリアップ3日間)⇒カンボジア(プノンペン半日) ⇒ベトナム(ホーチミン3日間)⇒ベトナム(ダナン2日間)⇒ベトナム(ホイアン1日間)⇒ベトナム(ハノイ5日間)⇒帰国 渡航中は主に世界遺産や遺跡、寺院の観光、ローカルグルメの食べ歩き、渡航先で出会う人たちとの交流をして過ごした。 航空会社はLCCを使用し、国境間や都市間の移動は高速バスを使用。オプションツアーなどは不使用。 現地での移動は鉄道や路線バス、トゥクトゥク、Uber、Grab、などを使用。 宿泊先はコストが抑えられるだけでなく、旅好きが集まりたくさんの人たちと出会うため全てホステルを使用。
2. 渡航準備(渡航理由や渡航のための準備 等) ※必須(300字以上)
渡航理由 18歳の時に初めてアメリカへ一人旅をしたことがきっかけで、いろいろな国へ行ってみたいと思うようになり趣味として旅を続けていた。今回の旅もその一つである。以前よりアジアの食べ物や雰囲気が好きであったことや、学生のうちに見ておきたい景色が多かったため、今回はまだ訪れたことのないこの三カ国を選んだ。 渡航のための準備 今回選んだ三カ国は陸続きでつながっているため、国境越えはLCCよりも安く移動できる高速バスを選んだ。また、せっかくの夏休みで時間があったので、行きは飛行機と初日に泊まるホステルだけを予約していき、その後の行動は自分の感じたまま自由に行動できるように予約を一切していかなかった。東南アジアは舗装されていない道や交通の環境があまりよくないので、荷物はバックパック(35L)だけに抑え移動しやすくした。LCCの持ち込み手荷物の重量制限に収めるため、4日分だけの服を持って行った。
3. 渡航の成果(印象に残ったこと、新たに発見したこと、感じたこと 等) ※必須(300字以上)
今までに訪れた国よりはるかに物価が安く、何をしても格安で行動できた。ほかのアジアの国と比べてもタイ、ベトナムは勢いを感じた。まだ完成されていないビルや鉄道が多く、たくさん的人员によって作業が行われていること、高級である車に代わり原付の数が大量であること、断っても断つてくる物売りなど身近に感じるものが多かった。 ただ都心部から少し離れただけで生活の質ががらりと変わっているのも面白かった。カンボジアで水上民族の集落を訪れたときに私の案内してくれた子はなんと11歳であった。11歳の子供が毎日、観光客相手に英語で案内をしているという現実には驚かされた。その子の兄弟は全員働いていると言っていた。発展した国を訪れているだけでは見ることのできなかった光景を見ることができて良い経験になった。泊まっていたホステルには様々な国の人がいて、その人たちと交流したのも楽しかった。日本に興味を持っている人達が多いことに驚いた。そのほとんどがもう一度日本に行きたいと言っていたので、日本の魅力を改めて感じることもできた。もちろん日本人の旅人とも出会う機会があり、様々な人たちがいた。世界一周をしている人や海外で働いていた人など、普段の大学生活では聞くことのできないような話を聞くことができた。様々な人たちとの出会いが今回の旅を刺激的なものにしてくれた。
4. 渡航の成果の活用(渡航で感じたことや学んだことを今後、どのように活かしたいか 等) ※必須(300字以上)
東南アジアの旅で感じたことは”日本の当たり前”はほとんど通用しないということ。水は飲めない氷も危ない、一見良い人そうに見えても結局はモノやサービスの押し売りであったこと、子供が毎日働いていたことなど、普段生活しているだけでは思いつかないようなことが次々と起こった。旅先で出会った英語圏ではない国の人達の英語のレベルが高くて触発された。その人たちは自分は旅が好きだから独学でも英語を話せるようにしたと言っていた。とても単純なことであったがとても重要なことであると考えさせられた。現地の客引きのおじさんですら英語を話す。アウトプット力に驚かされた。毎回感じることは英語ができればできるほど旅が楽しくなるということである。これはきつと旅だけではなく今後の人生でも同じであると思う。行動できる範囲や活躍できる範囲を広げてくれるものなのと思った。せっかく日本に興味を持ってきている旅人が多いのであるから、その人たちにより楽しんでもらえるくらいのコミュニケーション力をつけなければいけないと思った。現地の人に教えてもらったお店やアクティビティ、景色は素晴らしいものが多かったので、私も日本に住んでいる者としてアウトプットできる人にならなければいけないと感じた。

氏名	国学 太郎	所属	経済 学部 経営 学科 2 年
学籍番号	16xxxx	渡航期間	平成 30 年 8 月 ~ 平成 30 年 9 月
渡航先 国・地域	タイ、カンボジア、ベトナム	渡航目的	1. ボランティア 2. 国際交流活動 ③. 観光 4. その他()

5. 渡航中の画像(お気に入りのスナップ) ※必須(画像1枚以上)

※Excelの「挿入」メニューから「画像」をクリックし、挿入する画像を選択・挿入してください。



写真の説明① 世界遺産アンコールワット(シェムリアップ)



写真の説明② 鉄道の待合所にはイスもなく一昔前の映画の様



写真の説明③ 案内してくれたセン君(11歳)



写真の説明④ 一番感動した世界遺産の街 ホイアン(ベトナム)

6. その他(自由記述)

今回の渡航ではほとんど身の危険を感じることはなかったが、気を抜くと多めにお金を請求されたりすることがあった。あらかじめ相場を調べておき、現金をあまり持ち歩かないようにするなどの対策をした。道で携帯を使い地図を確認していたら、後ろからバイクに乗った人が携帯を奪い取ろうとしてきたことがあった。強く握っていたため無事であったが、高価なものを持っているという自覚が足りなかったと反省した。基本的に街中で使えるFree Wi-Fiがなかったため宿で経路などを調べていくようにした。ベトナムはコーヒーの生産量世界第2位ということもあり、いたるところにカフェがあったため重宝した。現地の言葉で軽い自己紹介やあいさつなどを覚えていくと、とても優しくしてくれた。今回行った3か国は隣接しているにもかかわらず全然違う文化や食を持っていて都市を移動するたびにわくわくした。

○学生署名欄(自筆): **国学 太郎**

※ 報告書は、上記の1~5の内容をすべて満たせば、自由な書式で作成しても構いません。(全体で1200字以上)

※この報告書の記入内容をWebページ、印刷物に転載し、海外渡航を検討する学生の参考資料として使用することに

同意します

同意しません